



一  
猷  
蝕  
太  
平  
樂  
記

拾  
貳

~ 13  
3553  
12









*Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side, with several red square seals.*

厭蝕太平樂記卷之十二

石川之末段以稀多う塚跡なる事  
身り船政治をえ自物事

こよふ石川之末段以稀多う塚跡なる事  
次男あり大久保内あ富をそ慕りお  
辰一りりゆく実分たたりよようそ  
まなめ政をいふ侍がぶきとるぬりれん  
くろくろむむとそあうそあうそあう  
あうまうそあうのらあうそあうそあう



上はるまの侍借御身しれはれはる川  
 ちかづいさきさきしにありり二又の衣  
 恥阿げんと福崎のより崎み押を  
 戸をかりあて何とぞあはれをを  
 何あが例をきあはんととる有らるあま  
 土つらぬ御のさうも辰色のほほ  
 吹衣長ともりりりんとあつ  
 して押くことさあるす叶い  
 まどいさぐく列ねあくとつさ

石川うらうらくはな御ともハちさし  
 け川はちるまごころして二又を  
 阿げてほあれ恥跡一とと  
 けあまて福をまこころともい  
 庵さうげぬゆらねおとあはれは家  
 ともこれあきことし合せけ  
 今年あさすせすイあまりあ  
 あまり大名のあまらるるこ  
 只ありのあしり仰られそ

六三























るれんさして〜ゆ地ようきるなり  
とめたるういて〜  
かん状然りさう〜  
けれども〜  
ふれ〜  
て〜  
流〜  
ク〜  
横川とぞ〜

田集く〜  
い〜  
付〜  
多〜  
浪田家の勢〜  
ゆ〜  
く〜  
八山〜  
ま〜



俸くろくもせはひしつり  
 合うるもきつておしりまは  
 そのおのよおとれさしよさむ者  
 ちちのつらりれる職田をさすめ  
 流罪しつらる城内へ逃入ける  
 兼相殿して無念なるあう引たり  
 時よつらるる者うさしりらん  
 伯父が所つても力をふるまはして  
 為田るも失つあはらま

とろく事さしつり無念よおの  
 て後継きしんとつとも高田父子  
 さぬさぬいふぬしつらつら  
 まる  
 高田出も合戦の事  
 所り款兵大おぬ  
 高田の所中がまらねるを村内へ  
 入しつり画りるりせんをて伯父が  
 所の所名の肉よさるしち高田内子

北平雜言卷之九

九



其方はれにまきだらひのりーさそゆる  
 織田をそま齊か向ひてりらる老お  
 みのそ備方の是より人を引入れたる  
 とりーきーいさるー阿のつた  
 その身をたのんぎの地を藤田上野  
 らまてゆけーたゆめおふか  
 幸ひてへんお紙をとりとみる  
 免ん目るそそ紙立信どりのを  
 おねんよおものひそそ村よある

てのたまりの軍師をかくのいそ  
 の名城の形よおをたきりらる  
 何のほりぞとそひのよお村うそ  
 信のまよーつこーまろし  
 ぐーそおらののゆよ少部をこち  
 信ぎよよ大敵を付たやそその時  
 向しんおおまこひおひをさる  
 おねんぬりてそひのちの方大手  
 向のよ加路路陣やをさそそ

太平御記卷之十三



ひらりたる一雨よせてくぬ  
 そのいづらよ真名はたそのいそしに  
 勢まゝ何れかのくぬそたよ新まは  
 そのみぎにたな中ね殿そのみぎ  
 浪那のたそむらねよ松平一掃あり  
 そのたよ福崎のたおるありたよ  
 生田丸のたよ少敷そりそ中より  
 加分はたかた物奥村はたはちうはた  
 百はらそそちのたよきりう新お中

旬より乾の風はくくくく  
 毎を吹まくるくくくくくく  
 是をとるゆすあふ出ぬのまくのふ  
 新より新砲をとりちかけ一ひん  
 けしうちうこころさる奥村はたは  
 以傍おもい毎を新あそそり掃員  
 残ハせんといふどもかかるとどのこれ  
 ちりしたるよりちるまよおお  
 十日の夜を村りりるるをめくぬ



お歌成やうきくおんぬよかけ申て  
 おを御母室様とる由りお物お由成  
 りさうづーとてまけれん御成  
 あまづーとて由りお物お由成  
 十九よ孫のわざはひくし  
 加の歌中知作の由皮お吹ま  
 これ地風よとれと申るは軽  
 おくぬわおあうまてちををん  
 おおぬおの少女より強砲十八

撫新かけて足輕十八人中  
 うらこらうその余りのををひ  
 教志べこまらうて奥村を  
 かんめんいんてを勢百も教人  
 つまそて東のちか子る出ての者  
 下知して彼教く妻いんあつと  
 君らよそらうてさあゆまけ  
 君らにけがうらうらあまおと  
 ちからぬらうて教おきりてさ



まもも志れば彼これさうさう陸奥  
 伊井なるべき新ふるそ外流大なる偽  
 家申これゆえにあてあき真村  
 ちあをささうやいよ真村もさうの  
 野良のりく外ふるいさせん  
 おそふ所よおぬか言力の者さ  
 をし我さうさうて素さうりら  
 只かろ是押よせたるよかかる  
 此お先物真村どりてこりよけ  
 けアらる

率もやうく山徳丸の河内りその教  
 のうらよ維子うらたるまありと  
 お心多さうさうそれゆえ  
 とおろくやの保るまうさうの御  
 ちお方と城方とす方くよああり  
 たうお阿うまうてそおあ時  
 声をさうさうゆえそれよおそれ  
 新さうさう地糧のるいけお山さう  
 詠く途らせんたうておたれ







けふもふかましくあつるべと西の  
 かりと云ふものを失ふて浪の  
 先刻これまじり 少歌こゝろ けけとて大歌こゝろ けけと  
 して山登りよ入ひこんと早あや してまが  
 くのなましく我善よく 氏のあんとけ  
 こそくは思おも 今いま 少用すく よひかたきるけ  
 常つね ちるまがりゆやうのほほほ  
 といふそのまもさるまおらりて  
 新あらた の一帯ひと ちてそもくろくくべいさ

上うへ へととよまむとくろくくび  
 ちるま今いま ぞん四よ つけよ辰つと ちの  
 意い ちて来き るけけ けけ けけ  
 けけけけけけけけ 後のち 思おも けけ  
 いちちち ちんちん ありてさ  
 けけけけけけけけ けけ けけ  
 けけけけけけけけ けけ けけ  
 けけけけけけけけ けけ けけ

太平集言卷之三

五



君は御用はまゝと力地ぬけに  
 海をく首をさしづのぶてまらき村  
 かのむわくくははるはるおをの  
 たしうまゆきいらがるまのまの  
 つらうまゆきいらがるまのまの  
 かくるはおらまら海はむらひ  
 汝が金おのこといままも  
 忠義をれを念をくしんぬき  
 心いりまらぐりくぬらうり

今まをり常をこまの歌傳く  
 うらうらうまら海はむらひ  
 いまもとも名をまら子らぬ  
 忠義をれを念をくしんぬき  
 心いりまらぐりくぬらうり  
 今まをり常をこまの歌傳く  
 うらうらうまら海はむらひ  
 いまもとも名をまら子らぬ  
 忠義をれを念をくしんぬき  
 心いりまらぐりくぬらうり























ちるの死をりて一せ免仕りしに  
 と係おりけり中めもあを  
 和る水もい別して今なるの  
 かし私るを死してを御免を  
 登りかくたあもりいけ上る日の  
 先給を子御りし事あつる  
 別して有りぐる仕向かせと先が  
 の一系をりしおむらと致し  
 尸上り大御ふ志をしく思あまそ

ちるともるり死るる一をんその  
 云ん井云んは海陸つあのみ  
 く口をん誠後中おむん少出掛  
 麿る金舞雲を松平下総を松平  
 丹波を井たう耐戸田名終ち  
 その外は自分十人出候も十人  
 部合軍勢七万の一人出ぬの  
 つる松平かあを松平隆興を海  
 御をるみ御律人正けあを合せて







志望のなる地田より長刀まで続出  
 きりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 かけくちりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 るすちりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 堀のやゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 るす干いりゆりゆりゆりゆりゆり  
 ほりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 志望ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 まきゆりゆりゆりゆりゆりゆり

けく心緒だいまて云の井橋よのば  
 りためよ若らまよゆりゆりゆりゆり  
 出供のあゆりゆりゆりゆりゆり  
 杉平舎人十人みぢんよちりゆり  
 公いゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 於に抄りて引てさすゆりゆりゆり  
 きりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 志望ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 車ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

太平御記卷之十二  
 十四











おちろろきり陸奥つらつらりともよ  
 小ちまちまつ向むかりとも悪あく心こころにせーるたふ  
 る〜んぶぐこの者まちくといひて  
 せうをいひてそらりよ大佐おほさへを  
 折おりれらるまり休やすみひてままりりまり  
 所を大介おほせ突つ出でハ方かたまあありてせめ  
 た〜り陸奥むつち追お〜り山根やまね平へと  
 小こ島しま士し津つをままり〜り〜り  
 小こ磯いそ源げん若わ清せい海かい通と津つをを仕し合あ  
 山根やまね又また子こををままり〜り

山根やまね又また子こををままり〜り  
 大助おほすけを陸奥むつち追お〜り  
 あやうきとあよ田村のりむらと水みづ日ひ一ひと子こ戸と氏うぢ  
 掃はり〜り石内いしうち飛と伴ばんをを角かくととままり  
 二ふた〜り命いのちををたたすすかりて追お〜り  
 城しろ方かた生せい揮ひ〜者ものあり付つけけままり  
 城しろ方かたの者もの氏うぢ弓ゆみ矢やのの氏うぢ知ち〜り  
 せりのやうやう子このの氏うぢ〜り〜り奥おく長ちやう



申すのまじりたるの御成なる者いささ  
 にもいれずし今らの御成なるまじり  
 たるひてあはれをゆめたぬと  
 べしとて申すしりりしてさして  
 申す子あゆ縁の老んて  
 のくくめおさうしこれくあまり  
 もさるづしとて今らの御成なる  
 ろりてなぬくしとて申す  
 御成なる村が御成なるをうしとて

といふ事かきさうして  
 まうし夜ふしうて  
 つけつて堀より死なむをよせ  
 名をたのこして堀の中へ入  
 おまのよとておまをよせ  
 申す申すし申す申すし  
 不自由よりあまのまじり  
 こそよまじりておまのまじり  
 まじりておまのまじり







